

第2回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

2019年

12/25_水・26_木

大阪大学
中之島センター

大阪府大阪市北区中之島 4-3-53

参加費：無料

文化財をはじめとする人文科学資料研究への活用が期待される「負ミュオンを用いた新たな非破壊研究手法」の実用化を、今、日本の研究グループが精力的に推進しております。高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所では、茨城県東海村にあるJ-PARC MLF ミュオン施設(MUSE)で世界最高強度のパルス負ミュオンビームを用いた分析が進められており、また、大阪大学核物理研究センター(RCNP)でも、連続負ミュオンビームによる非破壊分析が活発に実施されています。

これまでも放射光や中性子などを用いて、様々な文化財科学の研究が行われておりますが、さらにミュオンも加えて、量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催します。第1回目のシンポジウムは、今年7月に東京国立科学博物館で開催しましたが、この度、関西方面の方々にも広く参加して頂くために、第2回目のシンポジウムを大阪で開催することとなりました。全国の大学・博物館・研究所等の人文科学研究者と自然科学研究者とのネットワークの形成に向けて、新たな文理融合プラットフォームを構築する一助となる事を期待しています。

皆様のご参加をお待ちしております。

世話人代表 三宅康博(KEK 物構研)、佐藤朗(大阪大学)

1日終了後に懇親会を開催しますので、ぜひご参加ください。※懇親会は会費制

参加申し込み・
プログラム等
詳細はWEBを
ご覧ください。



<http://www2.kek.jp/imss/event/2019/12/2526sympo.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
三宅 康博

E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、
大阪大学核物理研究センター

共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館

協催：日本中間子科学会、J-PARC センター、新学術領域「宇宙観測検出器と量子ビームの出会い。新たな応用への架け橋。」
異分野融合「新学術・産業応用を目指した次世代ミュオン分析拠点の形成」